

総合的な学習の時間の第1の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の教育目標

【目指す学校像】
自主自立の精神を有し、地域や国際社会のリーダーとして活躍する人材を育成する学校
【育てたい人物像】
様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー
○答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒
○豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒
○未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスがとれた生徒

各学校で定める目標と育成する資質・能力

【知識及び技能】 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、地域の特徴や魅力に気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
【思考力・判断力・表現力】 地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
【学びに向かう力・人間性など】 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

総合的な学習の時間の学習評価

○授業分析による学習指導の評価を重視する。
○ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
○観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。
○学習カードや振り返りカードによる個人内評価を重視する。
○PDCA サイクルを確立し、学期末・学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす工夫をする。
○指導と評価の一体化を図る。

生徒の実態

○指示されたことは、まじめに取り組む。
○リーダー的素養を持つ生徒が大部分を占めている。
○基本的生活習慣が確立している生徒が多い。
○自分の思いや考えを表現することができる。
○仲間とかかわって互いを高め合っていく力に課題がある。
○内発的動機づけを行い、個々の主体性をのばす必要がある。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

○心のサポート体制
→カウンセリング機会の充実（スクールカウンセラーとの連携）
○ケース会議の実施
→個に応じた指導
○コミュニケーション機会の拡充
→保護者との連携・自己受容・他者理解の促進

目指す生徒の姿

○個に応じた学習を通し、向上心を高め、自己実現を図ろうとする生徒
○自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくむ生徒
○探究プロジェクトや総合的な学習を通し、論理的に探究するための手法を習得させ、主体的・協働的に物事を遂行する生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

【目標を実現するのにふさわしい探究課題】

○地域を知る（グローバル＝グローバル×ローカルの視点）
（※自己を知る・日本を知る・海外と比較する・差別化の視点を養う・自分も周りも好きになる）

【探究活動を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

○地域をフィールドに培った需要創造力を身に付け、なりたい自分を可視化することができる。
○タブレット端末を利用し、情報収集能力・思考の可視化・プレゼン力を構築することができる。
○ポートフォリオを計画的に蓄積し、自らの思考を言語化、可視化することで将来のビジョンを明確にすることができる。
○グローバル人材を目指すうえで、世界共通目標であるSDGsを取り入れた課題探究を実践することができる。
○自分たちを取り巻く社会に広く目を向けて、活動の意図や目的を明確にしたりして課題を見出すことができる。
○調べたり、考えたりしたことをまとめ、相手や目的に応じて論理的に表現することができる。
○探究的な学習を通して自己理解を深めるとともに、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重することができる。

学習活動、指導方法等

【学習活動】

○地域や生徒の実態を踏まえ、グローバルな視点を持ちながら、探究テーマを設定する。
○学習内容は学年で開発し、地域の財産（人・自然・歴史・文化等）を生かした学習活動を行う。
○多様な表現方法を身に付け、学習の成果を表現する場を設定する。
○学習の振り返りを大切にし、生徒が自分の学びを実感できる場面を作る。
○タブレット端末の遠隔教育システムを活用し、「地域探究セミナー」の企画・立案や学習アプリ活用による個に応じた学びを実現する。

【指導方法】

○生徒の課題意識を連続・発展させる支援と工夫を行う。
○個別の最適化→個に応じた指導を工夫する。
○各教科と関連を重視した指導を行う。
○情報分析やまとめ・表現の場面において、思考ツールを積極的に活用し、協働的な学習の充実を図る。
○ポートフォリオを積極的に推進し、学びの過程を可視化する。
○体験活動を重視する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

○「総合的な学習の時間」における全校指導体制を組織する。
○地域の教育資源をデータ化、教材化するとともに、日常的なかかわりを構築する。
○地域の情報ははじめ、公民館や市役所、地域学校との連携を図る。
○7校連携を活用し、学校間での実践と情報の交流を綿密に行う。
○ワークショップ研修等を重視する。
○メディアセンターとしての学校図書館の整備・充実を図る。